

## 10月の都内経済状況







コンサルティング事業部

項目	天気図	コメント
現在の景気動向		10月の都内の景気は、緩やかに回復している。百貨店の売上は3ヵ月ぶりに前年を下回ったが、スーパー、コンビニエンスストアの売上は前年を上回った。乗用車販売は12ヵ月ぶりに前年を下回った。住宅着工は2ヵ月連続で前年を下回り、公共投資は2ヵ月ぶりに前年を上回った。輸出は12ヵ月連続で前年を上回った。有効求人倍率は3ヵ月ぶりに上昇した。企業倒産件数は2ヵ月連続で増加した。工業生産(9月)は2ヵ月ぶりに前月から上昇した。29年7~9月期の関東大企業の設備投資は増加したが、経常損益は減益となった。
今後の見通し(3ヵ月)		都内の景気は、引き続き緩やかな回復が期待される。新興国の景気下振れや金融資本市場の変動、アメリカの政策動向、イギリスのEU離脱決定の影響などが今後のリスク要因となっている。
個人消費	百貨店売上高 	百貨店売上高は、前年同月比▲1.0%と3ヵ月ぶりに前年を下回った(既存店ベース)。2週連続週末に台風が上陸したことや土曜日が昨年より1日少ないことが影響した。主要5品目の動向をみると、化粧品や高級腕時計が好調な雑貨は前年を上回ったが、その他の衣料品、身のまわり品、家庭用品、食料品は前年を下回った。
	スーパー売上高 	スーパーの売上高は、前年同月比1.5%増と8ヵ月連続で前年を上回ったが、増加幅は前月から2.1ポイント縮小した(既存店ベース)。
	コンビニ売上(関東) 	関東地区のコンビニエンスストア売上高は、前年同月比1.4%増と56ヵ月連続で前年を上回ったが、増加幅は前月から0.9ポイント縮小した(全店ベース)。
	乗用車登録台数 	乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比▲4.4%と12ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別でも、普通車(同▲4.8%)、小型車(同▲4.7%)、軽乗用車(同▲2.5%)がいずれも前年を下回った。無資格検査問題による生産・出荷の減少が影響した。
住宅建設		住宅着工戸数は、前年同月比▲1.0%と2ヵ月連続で前年を下回ったが、減少幅は前月から14ポイント縮小した。利用関係別では、分譲マンション(同1.5%増)、貸家(同1.7%増)は増加したが、持家(同▲14.9%)、分譲一戸建て(同▲0.7%)は減少した。
公共投資		公共工事請負金額は、前年同月比0.4%増と小幅ながら2ヵ月ぶりに前年を上回った。発注者別では、国(同▲33.0%)は減少したが、独立行政法人(同20.2%増)、東京都(同22.1%増)、市区町村(同97.7%増)、地方公社(同1.9%増)は増加した。
貿易(東京税関管内)		東京税関管内の輸出額は前年同月比14.2%増と12ヵ月連続で前年を上回った。主要地域別でも、アメリカ向け(同7.2%増)、EU向け(同23.0%増)、中国向け(同32.1%増)、アジアNIEs向け(同9.7%増)、ASEAN向け(同24.8%増)がいずれも増加した。
設備投資(関東、大企業)		財務省「法人企業統計調査」関東財務局管内分大企業集計によると、関東の法人大企業(資本金10億円以上、金融・保険業を除く)の29年7~9月期の設備投資額は、全産業が前年同期比1.7%増、製造業が同▲3.2%、非製造業が同5.0%増となっている。
企業収益(関東、大企業)		同上調査によると、関東の法人大企業(同上)の29年7~9月期の経常損益は、全産業が前年同期比▲13.9%、製造業が同56.6%増、非製造業が同▲33.3%となっている。
労働需給		有効求人倍率(季調値)は2.10倍と前月から0.03ポイント上昇した。有効求人倍率の上昇は3ヵ月ぶり。先行指標とされる新規求人数は前年同月比5.1%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。南関東の完全失業率は2.7%で、前月から0.1ポイント上昇した。完全失業率の上昇は5ヵ月ぶり。
企業倒産		企業倒産件数は前年同月比3.8%増と2ヵ月連続で前年を上回ったが、負債総額は同▲42.7%と5ヵ月ぶりに前年を下回った。1~10月累計の倒産件数を業種別に見ると、全体が同7.0%増で、サービス業(同28.9%増)、卸売業(同7.1%増)、情報通信業(同5.0%増)、建設業(同11.4%増)、飲食店・宿泊業(同27.1%増)などが増加し、小売業(同▲15.0%)、製造業(同▲4.7%)、不動産業(同▲8.5%)などが減少した。
資金需要(銀行)		銀行の都内向け貸出残高は前年同月比3.7%増と74ヵ月連続で前年を上回った。増加幅は前月と同じだった。

工業生産指数(季調値) ( )は前年同月比%	工業在庫指数(季調値) ( )は前年同月比%	消費者物価指数 ( )は前年同月比%	(一〇メモ) 東京ビジネス地区の空室率低下 三鬼商事㈱発表の「東京の最新オフィスビル市況」によると、東京ビジネス地区(都心5区)の平均空室率は、10月時点で3.02%と2ヵ月連続で低下した。区別では、①新宿区が1.58%で一番低く、続いて②渋谷区1.93%、③千代田区3.21%、④港区3.26%、⑤中央区3.82%の順。
7月 97.5 ( 4.3)	7月 97.5 (▲14.6)	8月 100.1 ( 0.5)	
8月 93.8 (▲1.8)	8月 103.7 (▲11.3)	9月 100.1 ( 0.5)	
9月 95.4 (▲1.1)	9月 110.0 (▲5.3)	10月 100.2 (▲0.1)	

\*工業生産指数・在庫指数は2010年平均=100、消費者物価指数は2015年平均=100。\*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨	雨